

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

1. 活動のテーマ

<テーマ>

どろりんのふしぎ

<テーマの設定理由>

日頃から感触遊び、寒天、小麦を行っている際、不思議な感触に興味を持っている姿が見られたことから、身近な『片栗粉』をテーマとして設定した。小麦粉粘土はよく扱っていたが、別の感触を感じて欲しいので片栗粉の感触だけでなく水の分量も自分で計って作ることから体験し、さらに理解と探究心をさらに深めるため

2. 活動スケジュール

①実演 - 30分程度

②製作 - 30分程度

③体験 - 30分程度

【参加人数】

3歳児 - 11名

4歳児 - 9名

5歳児 - 13名

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

○準備した教材

どろりんの粉(片栗粉)、計量カップ、どんぶり、ペットボトル、風船、雑巾、ティッシュ

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

○実演

- ・どろりん紹介
- ・どろりんの様子を全体で観察
- ・手ですくったり、叩いたりして、状態の変化、不思議を観察

○どろりんを作る

- ・セットを個人個人で作る

○どろりんで遊ぶ

- ・実際に自分で作った物を触り、感触に触れる
- ・風船に流し入れ、感触を楽しむ。机に叩きつけた時の状態の変化を観察する
- ・最後にみんなのどろりんを合わせ、どろりんウォークを行う

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

最初の頃はそのまま教材をいただいていたので保育士が、同じ体験を子ども達にさせたいと思って初めてから保育士始動で片栗粉作りを行った。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

片栗粉の不思議は、普段感触あそびとは、違った感触でしたので保育士も改めて感触遊びの重要せいをしりました。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

1. 活動のテーマ

<テーマ>

空気の不思議『空気砲で遊ぼう』

<テーマの設定理由>

空気の不思議『空気砲で遊ぼう』。昨年度『浮き沈み』をテーマにしたすくわくを行った事、また毎年業者の方に空間検査に来ていただいている際に子どもたちが興味を示していたという経緯から、『空気』をテーマとして設定した。空気は目に見えないが、どんな力を持っているのか、どうしたら見えるのかという興味関心をさらに深めるため。

2. 活動スケジュール

- ①空気砲実演 - 30分程度
- ②空気砲製作 - 30分程度
- ③空気砲体験 - 30分程度

【参加人数】

- 2歳児 - 10名
- 3歳児 - 11名
- 4歳児 - 9名
- 5歳児 - 13名

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

○準備した教材

空気砲セット(段ボール、紙の的)、布ガムテープ、ハサミ、風船

○環境設定

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

○空気砲実演

- ・空気砲紹介
- ・子どもたちを撃ったり、煙を入れて空気の弾の形を観察
- ・紐を撃って渦輪を確認する
- ・四角穴空気砲だとどんな形の弾になる？と声掛け

○空気砲を作る

- ・空気砲セットを個人個人で作る

○空気砲で遊ぼう

- ・ティッシュを乗せたり、丸い型を乗せて撃ってみよう
- ・下がっている紐を撃ってみる
- ・お友だちや先生を撃ってみる
- ・屋外に出て、煙を入れて撃ってみる

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

活動の姿まず空気砲を段ボールでつくるのですが、説明をききながら保育者が、サポートしながら作りました。煙が、段ボールの中に入ると空気が、わかになってでてきて子どもたちは、びっくりして不思議と叫んでいました。次の日、保育士が提案して園庭でおこないました。同じ現象がみられました。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

幼児からと思っていましたが、2歳児も楽しめる内容で参加できて良かったという感想が聞かれました。子どもの興味が引き出せて良かったです。室内で実験したことが、とがいつでも同じ現象が見られ子どもたちも保育士もあたらしい発見がありました。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

1. 活動のテーマ

<テーマ>

光絵

<テーマの設定理由>

赤青メガネから草木染を計画していましたが、すくわくのチャーリー西村さんからの提案で作品の出来上がる光をテーマにした方が関連性があるのではとっていただいてテーマ設定しました。

2. 活動スケジュール

①実演 - 30分程度

②製作 - 30分程度

③体験 - 30分程度

【参加人数】

3歳児 - 11名

4歳児 - 9名

5歳児 - 13名

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

○準備した教材

スクリーン、iPad、偏光板、セロテープ、手作りキット

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

○実演

- ・何も映っていない画面を偏光板を使って覗くと、映像が観える不思議を体験
- ・次の製作で作成する物の解説、実演を行い、次の活動への興味関心を深める

○製作

- ・セロハンテープを透明な用紙に何層にも貼り、下にiPadを用い光を当て偏光板で覗く
- ・光の屈折によりきれいに見える事に気付く

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

途中から子どもたちがあまりにも集中して作品づくりを楽しんでいたため保育者も保育の中で行いたいと提案があり是非行ってくださいと、伝えました。セロハンやセロテープも沢山使ってもいいですよと声かけしました。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

普段の保育では、どうしても教材を制限してしまう傾向にあり思い切り使うとあんなにいきいきして取り組み姿に保育士も気付かされました。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

1. 活動のテーマ

<テーマ>

赤青めがね

<テーマの設定理由>

不思議な影絵の世界。園のスクリーンで見た影絵クイズ(手で動物を作る)に、子どもたちが興味を示している事から『光、影』をテーマとして設定した。スクリーン、プロジェクター、赤青めがねを使い、子どもたちの興味関心をさらに深めるため。

2. 活動スケジュール

①実演 - 30分程度

②体験 - 30分程度

【参加人数】

2歳児 - 10名

3歳児 - 11名

4歳児 - 9名

5歳児 - 13名

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

○準備した教材

スクリーン、赤青めがね製作キット

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

○実演

- ・影の不思議実演
- ・スクリーンに映る影の不思議を観察
- ・赤青めがねをかけ、飛び出す絵を観察

○製作

- ・キットを使い、飛び出す絵本作成
- ・自分で製作した絵本を使い、飛び出す絵を楽しむ

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

最初の文は、そのまま次の日保育士が、提案して物や手でかたちを作り影絵クイズをだした。スクリーンに映る影をみて子ども達が、答えようとする姿があった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

子ども達の赤青メガネをかけて映るものが違って見えた事に感動するすがたをみて探究心が、ひきだされて行く事の素晴らしさに保育士も気付かされました。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

1. 活動のテーマ

<テーマ>

草木染め

<テーマの設定理由>

毎年自園で野菜栽培を行っている特性を活かし、『自然』をテーマとして設定する。日頃から野菜から出る汁に興味を持っている姿が見られることから、野菜等の色々な自然物より生まれる色を持っている姿を使い染物をしたりした。

2. 活動スケジュール

①実演 - 30分程度

②製作 - 30分程度

③体験 - 30分程度

【参加人数】

5歳児 - 13名

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

○準備した教材

布、ビワの葉(染料)、バケツ、割りばし、ビン、桶

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

○実演

- ・染物に関する解説を行う
- ・染物の不思議について関心を深める

○染物を作る

- ・個人個人で解説を聞きながら、染物を行う
- ・保育士も補助に入り、作業を行う

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

途中から枇杷の葉を煮詰めたら茶色いろになる事不思議さを感じました。保育士の提案で卒園制作ができたと言うことでテーブルセンターを作ることにして残っている煮汁で糸で絞って染めました。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

身近な自然の恵み（ビワの葉の色）が、自分たちの手を加えることで二つとない美しい模様（絞り染め）に変わるプロセスを共有できた。自然物は消費するだけでなく、自分たちの生活を豊かに彩るものに変えられるということを、子どもたちと共に実感できた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

1. 活動のテーマ

<テーマ>

野菜スタンプ

<テーマの設定理由>

毎年自園で野菜栽培を行っている特性を活かし、食育の野菜スタンプを使って制作に繋げた

2. 活動スケジュール

野菜スタンプでピザの壁面製作、野菜スタンプを花に見立て製作、花火に見立てて壁面製作を行った。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

○準備した教材

栽培した野菜、購入した野菜(オクラ、小松菜、レンコン、ピーマン、)、絵具、画用紙

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

○実演

・野菜の断面を見せて、『何に見えるかな』『これは何の野菜の断面かな』と興味関心を深める

○製作

・各々好きな野菜でスタンプを行う

・4歳児は花瓶に飾ってあるあ花をイメージして、スタンプを行う

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

今年度は、野菜の苗は、毎年幼児が植えて育てていましたが、乳児も参加してピーマン、オクラをうえました。調理の先生と打ち合わせをして食育のやさいスタンプにつなげ製作につなげ1歳児は大きなピザ作りにつなげました。子ども達は、ピザができると枠の中にスタンプを押すのを楽しみました。二歳児は、よるの花火につなげました。暗いお空に花火がパッとひらきました。それをみて幼児の4歳児クラスの保育士が花瓶をはり野菜スタンプをはなに見立てて製作しました。乳児クラスからヒントをいただき幼児ならではの食育に繋がりました。振り返り今回は、調理の先生が、食育の観点からすくわくにつなげ保育士とも打ち合わせをする事で子ども達の好奇心を引き出す事ができました。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

調理の先生が製作につなげてくれたので、子どもたちが楽しく取り組めて改めて食育の意識を感じた。